

豊明市平成27年度予算編成方針

【はじめに 重点目標は「若者に粋なまち」】

平成27年度の当初予算を編成するにあたり、はじめに本市のまちづくりの系譜、時代状況を全職員で共有したい。

平成27年度は、本市にとってどのように舵をとるべきときなのか。

第5次総合計画のスタートを前にした平成27年度は、豊明市にとって新しく始まる時、転換点であるとの自覚を共有したい。

これまで本市は、集中改革プランを包含し、より踏み込んだ第5次行政改革大綱を定め、アクションプランの推進によって他団体に比して積極的で具体的な行財政改革を積み上げ、市民に説明を重ねてきた。

この間、「新しい公共」、「域内経済の推進」、「市民力の活性化」といった今後の社会構造が進展して行くであろう領域にも積極的に試みを進めてきた。それぞれが実を結ぶのは先にはなるが、歩みを更に進めていかねばならない。特にこの数年間は、このような改革と創造という特筆すべき時期を経たといえる。

第3次総計では「住んでよかった、住み続けたいまち」を標榜し、成長するまちの在り方を示し、第4次総計では、「協働でつくるしあわせ社会」として、まちの真価は絆の価値であるとまちづくりの質を示した。第5次総計を前にして、国においても地方創生枠一兆円超えの平成27年度地方財政計画を編成したいとしている。まさに元気で独創的な地方に焦点が当たろうとしている。

このような系譜の中にあって本市の平成27年度は、「若者に粋なまち」を重点化の価値としたい。これは、政策であり、横軸に貫く価値である。つまり、各部署が進める施策、事業の目標としてこれを定めることとしたい。これは同時にまちづくりに主体的に関わる様々な担い手にとっても普遍の価値となり、ここに到達点を見定めて様々な議論を活発に進めていくこととしたい。これによって、価値の調和につなげ、長期計画を動かし始める直前のスタートアップにふさわしい政策によるマネジメントを開始していきたい。

【国内経済の動向と地方の転換点】

国はデフレ脱却と経済再生の道筋を示す、いわゆる三本の矢により再生と成長戦略の取組みを進めてきた。地方財政に対しては、「国の取組みと歩調を合わせて抑制を図る」とし、地方の財源である交付税について抑制的な方向性が示されている。これは国際的な信用確保のため、国の財政健全化が待ったなしであり、国にとっては、経済の好循環を軌道に乗せ、地方財政を再生、自立化させなければならないことを意味するものである。

このような背景の中、いわゆる骨太の方針において示されている政策の方向性として、50年後に一億人程度の安定人口構造を維持するという**人口に関わる目標**や、性別・年齢に関わらなくとも活躍のできる**新たな社会構造の構築**、東京一極集中の是正につながる**地方創生政策の推進**などを示している。いずれも未来に社会をつなぐことを重点に知恵を総動員しようというものであり、且つ国の行く末を左右する具体の鍵を握るのは地方であることを物語っているのだと我々は改めて自覚したい。

【本市を取り巻く状況と本市の行財政】

このような状況の中、社会の枠組みの問題として、現在の中央と地方に固定化した様々な偏在のなかで、近くに迫る人口急減社会、超高齢化社会の到来への対応も必須となっている。

本市の財政も将来を見通すほど、依然厳しい状況が続いている。平成25年度普通会計決算の歳入は3.6%の増、歳出についても3.0%の増となった。歳出での増加分野は、積立金63.5%増、扶助費6.1%増、繰出金6.0%増で、その他は減少項目となっている。近年の行財政改革の推進、緊縮型財政運営により財政指標上の健全性を維持させているものの、自主財源の安定的な確保、連続性の担保が課題といえよう。このような状況の中、財政調整基金残高は、2,294,444千円となり、標準財政規模の17.9%まで復元を進めたが、一層の確保に傾注しなけ

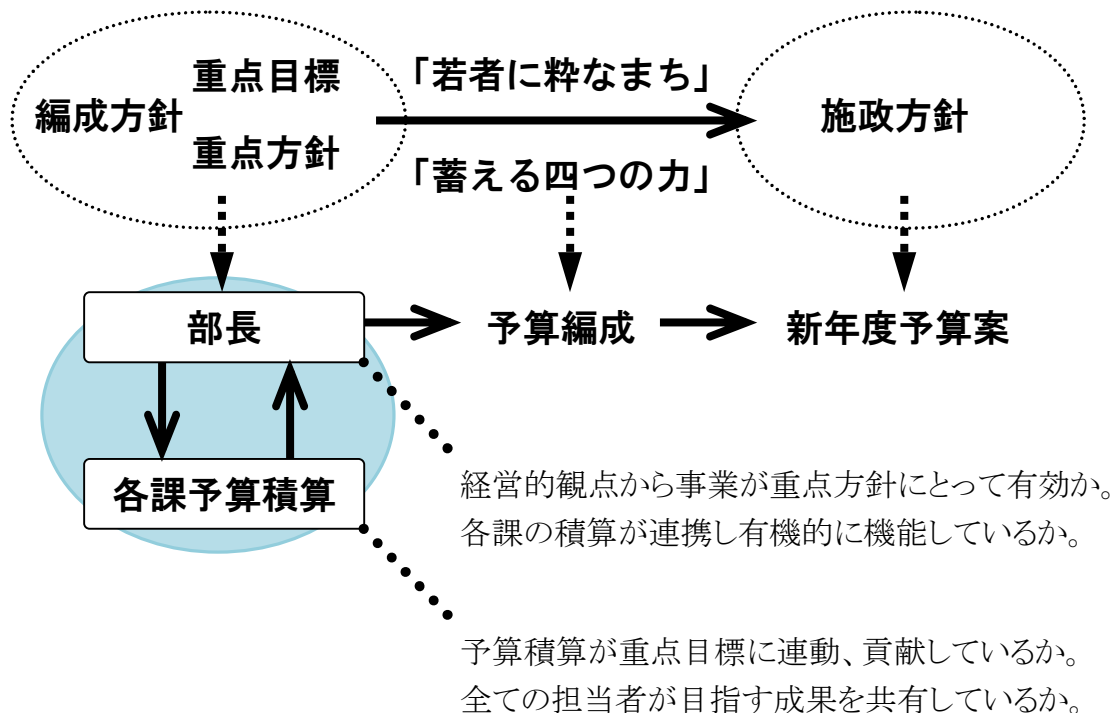
ればならない。国は経済の好循環を標榜しているものの、成果がどこまで実態に結ぶかは不透明といわざるを得ない。縮小する社会の中で迎える将来を見据え、資産の更新や長寿命化に備える時期に入り、財源の確保に計画的に着手しなければならぬことは言うまでもない。

【行政資源の戦略配分としての予算】

このように、平成27年度の予算編成においては極めて厳しい財政状況にあることから、量的な制約の側面として、**限られた行政資源の最適な配分**に厳しく取り組むこととなる。

一方、ひとつひとつの施策、事務事業の進行管理という面においても、**厳格で自律的な検証と積極的な説明**が求められている。事業執行の背景、成果を踏まえた展望においても、これまで以上の説得力が求められる。

このことから、編成作業にあたっては、各部・課の方針を明確にし、以下の**重点目標に吊下がる体系的な要求**であることはもちろんのこと、事業の立案においては、**次世代に目を向け、連続性を強く意識**した社会の新たな仕組みづくりを**新しい公共として具体化**していくことを念頭に、質的な工夫を意識した総点検、再構築を行い予算の編成に取り組むものとする。



平成27年度当初予算編成

重点目標「若者に粋なまち」

重点方針「次世代に向けて力を蓄える」四つの力

1. 財政力を蓄える。

全課・全職員が長期的な視点のもと、限られた資源から最大の効果を生み出す施策を実行するとともに、公共資産の能力を最大限に伸ばし、将来にわたり持続可能な財政力を蓄える。

地域内経済の活性化を誘導、支援し、将来に結実する財政力を蓄える。

2. 安心力を蓄える。

超高齢社会においても絆のある地域社会で安心して暮らせる仕組みを確保するとともに、全ての世代の健康的な安心力を蓄える。

災害時・非常時における危機管理能力の高い街を実現し、子・孫の世代まで続く安心力を蓄える。

3. 魅力を蓄える。

豊明市のもつポテンシャルを引き上げて個性ある活力を創出し、市民が地元で誇りをもてる魅力を蓄える。

4. 市民力を蓄える。

新しい公共の創出には市民が関与するよう配慮し、自治のガバナンスを高めていく市民力を蓄える。